

2014 年度前期 工学部建築学科 授業評価 目次

授業コード	授業科目名	開講時限等	担当教員	ページ
T1N002001	建築デザイン基礎	2 年前期火曜 3,4,5 限前半 / 2 年前期木曜 3,4,5 限前半	MORRIS MARTIN NORMAN 他	T1N 1
T1N003001	建築の構造	1 年前期金曜 2,3 限 1 期	和泉 信之	T1N 2
T1N007001	日本建築史	2 年前期水曜 4 限	穎原 澄子	T1N 3
T1N012001	建築設計学	2 年前期火曜 2 限	鈴木 弘樹	T1N 4
T1N032001	建築設備計画 I	3 年前期月曜 3 限	川瀬 貴晴	T1N 5
T1N056001	構造耐力論	3 年前期火曜 3 限後半	高橋 徹	T1N 6
T1N062001	先端建築環境論	4 年前期月曜 6 限	林 立也	T1N 7
T1N069001	建築振動論	4 年前期水曜 2 限	中村 友紀子	T1N 8

授業科目名	: 建築デザイン基礎 ((火曜エスキス授業、木曜エスキス反映演習))
担当教員	: MORRIS MARTIN NORMAN, 頼原 澄子, 金出 ミチル, 岩瀬 繁
年次・開講時限	: 2年前期火曜 3,4,5 限前半 / 2年前期木曜 3,4,5 限前半
授業コード	: T1N002001
授業アンケート	: 回答者数 30 人 / 受講者数 85 人 (回収率 35%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q11. 授業内容の量を考慮すると、進度は適切でしたか? (回答 29 件)

今回は、初めて民家の図面がデザイン基礎全体の範囲を占めることとなり、今まで、これプラス後半で2単位分でした。ペースに変更はなかったが、量は半分に一応なっていた。それで、44.8%はこのぐらいで適切と思い、24.1%のややそう思う人を足せば、70%はこれで納得したこととなる。機関の中で4段階もあることは20.7%の「どちらともいえない」と7%の「いいえ」と答えた人の理由となると推測する。しかし、ペースが速いのは、訓練のためということもあり、帰る点ではないと思う。

Q10. 授業では宿題、レポート等が理解を助けるのに役立ちましたか? (回答 29 件)

この課題の宿題やレポートは、建物の記録の図面の作成、模型の作成、アイソメトリック図の作成、建築の図学、また、紙面上の表現方法を発達し、磨くことであり、建築教育において重要である。それで、48%プラス31%、合わせて80%近くがその作業が役に立っていたことを思って、よかったです。

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 29 件)

93%が学習を行ったことは、建築のデザイン課題(このデザイン基礎を含めて)と建築教育の一つの重要な特徴を表すと言える。学生さんは、自分で作業を行い、図面や模型を作成することは建築の技術を身に着ける方法となっている。where design drafting and design are concerned, architects are perforce to a considerable degree self taught. The job of the teachers is to provide appropriate problems, and guide students towards their own solutions

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

アンケートの結果は全体的によいではないかと感じる。また、実際の青果物(学生の作品)を見て、丁寧な作業とレベルの高い作品が多くて、学生が課題を理解して、気分的に乗っていたことが伺える。今年、民家の課題はデザイン基礎のすべてを占めることとなり、古建築を修復することを専門としている方に、古民家の説明とその測量方法について説明をしていただいた。とても充実した説明でしたので、Q2において、「どちらともいえない」の答えが「はい」と同じ38%を占めていたことは多少理解しにくい。貴重な内容を面白い形で提供されたと思ったので、それをよ反映する結果を期待していた。

### 3. その他のコメントや連絡事項

この授業において、世界の最も優れていた木造建築の伝統の一つを、一つの住宅を通して、出会う機会を与えている。このすぐれた建築を図って、図面(2次元)と模型(3次元)で記録して、最終的にアイソメで表現することで、図面を自分の手で書く技術を身に着けると同時に、その優れた伝統から、建築を作るに当たり望ましいと思われる質の良さを目指すことの重要性を人市区することになると期待している。

作成(者): モリス、マーティン ノーマン

授業科目名	: 建築の構造
担当教員	: 和泉 信之
年次・開講時限	: 1 年前期金曜 2,3 限 1 期
授業コード	: T1N003001
授業アンケート	: 回答者数 57 人 / 受講者数 72 人 (回収率 79%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q5. 板書, OHP, スライドなどは, 見やすかったですか? (回答 57 件)

教室備え付けのプロジェクタではなく、建築学科のプロジェクタを使用しているため、スライドの見やすさ (平均 4.46) は向上しているようですが、更に工夫していききたいと思います。

Q7. 教室の環境は満足できるものですか? (回答 57 件)

教室の環境は平均 4.05 ですが、温熱・空気環境の改善を求めています。

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。 (回答 5 件)

授業中の私語については注意していますが、更に徹底していきます。また、スライドの操作が速くならないように操作速度について留意していききたいと思います。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

授業の理解度は 4.05、満足度は 4.26 であり、多くの受講者が概ね授業内容を理解することができ、良好な評価が得られたと思います。また、教材の効果は 4.25、例題のわかりやすさは 4.32、レポートの役割は 4.39 であり、講義要点ノート、小レポートなどが受講者の理解に役立ったと考えられます。スライドの見やすさは 4.46、教員の声は 4.47 であり、ほぼ全てのスライドを見て説明を聴くことができたと思われれます。今後とも、受講者が授業内容を理解できるように、更に改善していきます。

### 3. その他のコメントや連絡事項

昨年度から通常の質問対応のほかに「質問シート」を配布して、授業の進捗に応じて質問を受けつけて、適宜授業中に回答する方式を実施しました。今後も、回答のタイミングや時間を工夫して実施していききたいと思います。

作成(者): 和泉信之

授業科目名	: 日本建築史
担当教員	: 穎原 澄子
年次・開講時限	: 2年前期水曜 4 限
授業コード	: T1N007001
授業アンケート	: 回答者数 33 人 / 受講者数 89 人 (回収率 37%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 2 件)

スライドが見えない場合や、メモが追いつかない場合には、授業後に対応をします。または、その場でスライドを止めるように手を挙げてもらえるとなお良いと思います。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

日本建築史の大きな流れを理解するということは、多くの学生が達成できたようですが、単なる知識の修得にとどまらず研究的な視点を持ってゆくことが望まれます。

3. その他のコメントや連絡事項

試験は持ち込み可で暗記は求めていませんが、今後、使える知識とするためには、自己学習で本を読んだり、現地を訪れたりすることが重要だと思います。

作成(者): 穎原澄子

授業科目名	: 建築設計学
担当教員	: 鈴木 弘樹
年次・開講時限	: 2 年前期火曜 2 限
授業コード	: T1N012001
授業アンケート	: 回答者数 28 人 / 受講者数 76 人 (回収率 37%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか? (回答 27 件)

教材をもとに発展的に授業を行っているが、すべての項目を網羅できていない。授業外に課題を出すなどさらなる工夫をしていきたい。

Q5. 板書, OHP, スライドなどは, 見やすかったですか? (回答 26 件)

ほぼ見やすいという回答であるが、さらなる工夫をしていきたい。

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 23 件)

学生が積極的に授業内外で質問ができるよう、授業外の課題などを工夫したい。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 24 件)

授業の内容を理解できてない学生が少数いるようだが、授業の内容には満足している。授業の内容を理解できるよう授業外の課題などを工夫したい。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

設計にかかわる人間の感覚やイメージは重要なので、関心が高かったのは良い点であった。授業内で行う小論文では、学習として満足できない学生がいるため、学生の学習意欲の向上のため、授業外課題を工夫したい。

### 3. その他のコメントや連絡事項

遅刻が目立ちます。遅刻は、遅刻しない学生、教員に迷惑なので改善してほしい。また、授業中話をしている学生が散見された。

作成(者): 鈴木弘樹

授業科目名	: 建築設備計画 I
担当教員	: 川瀬 貴晴
年次・開講時限	: 3 年前期月曜 3 限
授業コード	: T1N032001
授業アンケート	: 回答者数 38 人 / 受講者数 84 人 (回収率 45%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q3. 教員の声はよく聞こえましたか? (回答 37 件)

マイクを使用しているので聞こえるはずであるが、後ろに固まらず、できるだけ前の席に座るよ  
うに。

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 36 件)  
内容は平易で、教科書も使っているので、若干の予習復習で飛躍的に理解度が高まると思う。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 35 件)

建築を理解するための基本知識であるのでまずは機器名称、用語などを記憶することから始める  
と良い。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

この授業はある意味で、建築分野全般を理解する上での語学の学習といった位置づけにある。こ  
の授業での内容を理解することによって建築をより広い視野で考えることができるようになると思  
う。

3. その他のコメントや連絡事項

どんどん質問をしてほしい。

作成(者): 川瀬貴晴

授業科目名	: 構造耐力論
担当教員	: 高橋 徹
年次・開講時限:	3 年前期火曜 3 限後半
授業コード	: T1N056001
授業アンケート:	回答者数 27 人 / 受講者数 65 人 (回収率 42%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか? (回答 26 件)

はい、と答えたものが 22 名、ややそうといえる、が 4 名で 4.85 点と、高い評価を得た。授業で使う PowerPoint ファイルを、研究室のサーバーからダウンロード可能としていることが、理解の助けとなっているものと思う。今後とも継続して資料のブラッシュアップを図りたい。

Q5. 板書, OHP, スライドなどは, 見やすかったですか? (回答 26 件)

はい、と答えたものが 24 名、ややそうといえる、が 2 名で 4.92 点と、高い評価を得た。慢心せずに、わかりやすい講義を続けるように努力したい。

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 26 件)

1,2 時間が 15 名、1 時間未満が 8 名であったが、3,4 時間が 1 人、4 時間以上も 2 人いた。毎回宿題を課しているが、人によっては難しかったようだ。社会に出てからのことを考えると、現状程度のレベルは確保したい。ばらつきを考えれば妥当なところだろう。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

シラバスにも記載しているが、PowerPoint の資料はそれだけで完結しているわけではなく、授業に出席して、補足の板書を書き写し、また解説を聞いて各自補足することによって初めて生きた資料となる。また、毎回出題される宿題を自力で解くことにより理解が深まる仕組みになっているので、是非能動的に取り組んで欲しい。

### 3. その他のコメントや連絡事項

スクリーンに表示されない補足事項を板書しようとする、9-106 の教壇は実に使いづらい。無意味に大きな音響コントロールボックスをリプレイスし、フルサイズ (黒板の横幅と同じ幅) の教壇を復活させて欲しい。

作成(者): 高橋 徹

授業科目名	: 先端建築環境論
担当教員	: 林立也
年次・開講時限	: 4年前期月曜 6 限
授業コード	: T1N062001
授業アンケート	: 回答者数 38 人 / 受講者数 82 人 (回収率 46%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q3. 教員の声はよく聞こえましたか? (回答 38 件)

地声が聞き取りにくいと、マイクを利用していない教員が多い部屋ではあるが、マイクを利用して授業を行った。評価結果は 4.53 と良好で、判断が正しかったと考えている。

Q9. 例題, 例え話やサンプル等がわかりやすかったですか? (回答 38 件)

評価結果は 4.66 と良好で、例題を中心とした授業構成が理解を促進したと考えている。Q5 の資料の見やすさ 4.86、Q11 の進捗 4.71 と高評価となっており、資料そのものは学生に受け入れられたと考えられる。

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 38 件)

授業期間中、学生から手が上がり質問がなされる機会は皆無であった。80 名規模の授業であり、やりとりというよりは一方的な講義形式にならざるを得ない状況はあるが、対話型の手法を部分的にでも取り入れることで、学生の理解度や興味を引き出せる可能性があると考えられる。次年度は必修から選択授業になるため、状況は大きく異なると考えられるので、この点に特に留意したい。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

本授業は一通りの基礎知識を得ていることを前提に、社会における先端的な事例や取り組みを紹介する内容としました。

就職や進学を目前に控えた学生達が環境配慮の必要性や目的を多角的に捉え、考える機会を与えることが授業目標です。

アンケート結果より、事例や経験談については学生に受け入れられ、概ね好評であったと考えられますが、環境の問題を自らの問題として深く考えるためには、講義形式にとらわれず、別の仕掛けを導入しても良いと感じました。次年度は受講人数を鑑みて、適宜、ワークショップ形式の授業なども検討できればと思います。

### 3. その他のコメントや連絡事項

就職活動や進路選択の最中にスタートした授業であったため、学生の社会に対する関心の高さがうかがえました。その点において、先端の事例や職業人としての経験談が中心となる本授業は時機を得た内容であったかもしれませんが、6 限は颯々かと思いきや、就職活動などを行っている学生には好都合だったかもしれず、時間的にも覚醒度が高く、大変話しやすい雰囲気でした。

作成(者): 林立也

授業科目名	: 建築振動論
担当教員	: 中村 友紀子
年次・開講時限	: 4 年前期水曜 2 限
授業コード	: T1N069001
授業アンケート	: 回答者数 12 人 / 受講者数 22 人 (回収率 55%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか？ (回答 12 件)

4 年生向けに開講されている科目であり、構造系の研究室に配属された学生を対象としていたが、卒業に必要な単位を揃えるために受講する学生が増えており、受講要件など考え直したい。

Q11. 授業内容の量を考慮すると、進度は適切でしたか？ (回答 11 件)

講義と演習の一体の科目である。再来年度からは講義のみとなる事が決定していることから、移行時の講義内容の検討の際には参考にします。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 中村友紀子